



城東図書館 2023年1月19日～2月14日実施

まちのひと 野々村 彩さんの紹介本リスト

元城東図書館アルバイト

しろくまちゃんのほっとけーき	わかやま けん/[え], 森 比左志/著, わだ よしおみ/著	こぐま社
乳幼児向けのロングセラー絵本で、今ではグッズも数多く出ているほど多くの人から愛されています。 何度も母に読んでもらい、自分でも読み返し、娘にも読み聞かせをし、親子三代で親しんでいる大好きな絵本です。 見開きでホットケーキが焼ける過程が描かれているページは、誰もが大好きだったと思います。「やけたかな」「まあだまだ」のちょっと焦られる様子が一番好きでした。 娘が小さい頃、絵本をお手本にして一緒にホットケーキを焼き、「ぷつぷつ」の様子を絵本と照らしあわせて焼き具合を確認したり、「やけたかな」「まあだまだ」を再現して顔を見合わせて楽しんだのも良い思い出です。 娘は最近ホットケーキを「パンケーキ」と呼びますが、私にはいつまでもこの丸くて甘いおやつは「ほっとけーき」です。		

小さな庭師のための大きな本	アンティエ・フォーゲル著, さくまゆみこ訳	文化出版局
小さい頃、何度も何度も借りた大好きな絵本です。花や木、野菜やハーブの栽培方法をハリネズミが紹介してくれます。中でも好きだったのは、アボカドとカミツレのページです。当時、どちらも見たことがなかったので、絵と解説を読みながら想像をふくらませていました。 アボカドは今ほど一般的ではなく、育ててみたい憧れの植物でした。小学校低学年のころ、初めて水耕栽培をした時のワクワク感は今でも覚えています。高校生時代アメリカでホームステイした時、メキシコ料理のヴァカモレでアボカドを食べて、その味にも感動しました。今でもアボカドを見るたびにこの本を思い出します。 また、大人になってカモミールティーを飲むようになってから「あの時の絵本に出ていたカミツレ茶はこれなんだ!」と知り、飲むたびに絵本のハリネズミの顔を思い出しながら微笑んでしまいます。 大人になってからも、開架に並んでいる頃は時々手にとっていた懐かしい本です。		

コロボックル絵物語	有川 浩/著, 村上 勉/絵	岩波書店
小学校の頃、『だれも知らない小さな国』シリーズを夢中で読みました。コロボックルという小さい人たちと、せいたかさんと呼ばれる青年の交流の物語です。ファンタジーなのに本当に身近なところにコロボックルたちが住んでいるかのような描写で、コロボックルと「トモダチ」になれたかのように物語に入り込んでいきました。 そしてこの表題の本はコロボックルシリーズ最終巻が出た1987から27年を経て、著者の佐藤さとしさんからコロボックルの物語を書き継ぐバトンを受け取った有川浩さんによって書き下ろされた新たなコロボックル物語です。主人公は北海道に住むノリコという女の子。あの頃の私のように『だれも知らない小さな国』の本に出会い、「もしかしたら・・・」とコロボックルの存在を信じ、お手紙を書くのです。 その描写がまるで昔の自分を見るようで、懐かしい気持ちになります。この本をきっかけに、またシリーズを読み返したくなりました。		

源氏物語	[紫式部/著], 山岸 徳平/校注	岩波書店
十代の頃、源氏物語が好きで片っ端から読んでいた時期がありました。学校の古典で習うのは「桐壺」や「若紫」の帖でしたが、通して読みたくて古典文学大系などで古語辞典を片手に読んだのが懐かしいです。現代語訳も、与謝野晶子訳、田辺聖子訳、橋本治訳、瀬戸内寂聴訳など読み比べ、漫画の『あさきゆめみし』も読みました。また、源氏物語好きな人あるあるかと思いますが、平安時代の文化・風習・生活にも興味がわき、そうした本もどんどん読んでいました。 いろいろ読んでみて、『源氏物語』は原本で読むのが一番楽しいと思います。源氏物語の底本は様々ありますが、読みやすいのは岩波書店のワイド版岩波文庫の源氏物語です。注釈が邪魔しない程度に適度に入っています。原本で読むと言葉のリズムがとても心地よく、より世界観に浸れます。		

能と能面の世界	中村 保雄/本文	淡交新社
祖父が能面好きだったそうで、能面の本が家の本棚に数冊並んでいました。その中でもこの本の能面の写真が好きで、小さい頃からよくめくっていました。 能の演目の解説と使われる能面の紹介、ゆかりの地の案内の文章の後に、能面の写真があります。ほとんどが白黒写真なのですが、子ども心に美しいあと眺めていました。文章も読みやすく、良い入門書だと思います。 私の好きな面（おもて）は、鞍馬天狗の「大べしみ」と、葵上の「泥眼」です。まだ舞台では観たことがないので、いつか観たいと思っています。 娘が通っていた大阪市立榎並小学校の側には「榎並猿楽発祥の地」の石碑が建っています。それにちなんで、子どもたちに能楽師の先生方がご指導下さる「こども榎並座 能楽教室」が10年前に始まりました。娘は小1の時に「こども榎並座」に入って謡・仕舞・太鼓を教えていただき、今も続けています。 私が小さい頃に親しんだ本の中の能楽の世界に、大人になった今また、娘を通して楽しませてもらえていることが嬉しいです。		

大大阪モダン建築	橋爪 伸也/監修	青幻舎
レトロ建築が好きで、時々古き良き大大阪時代の建築を見に行きます。大正時代後半から昭和初期の大阪が華やかに発展していた大大阪時代に建てられた、レンガ造りの建物や当時最先端だった鉄筋コンクリート造りのビルディングが大阪市内にはまだ残っています。カフェやレストランとして利用されている建物もあり、気軽に当時の空気感に触れることができます。 この本は、大大阪時代の建物79棟が写真入りで紹介され、近代建築に関するコラムも載っています。巻末に地図もあり、この本片手に大大阪時代を散歩できます。モダン建築・レトロ建築を楽しむのに良い入門書です。 ただ、2007年初版発行のため、もうすでに解体されている建物もいくつかあります。1棟でも多くこれからも保存されるようお願いつつ、消える前に訪れなければと思っています。		